

6・3 貨物の安全な積み付けおよび運送

6・3・1 危険物の運送

国際航海における危険品の海上輸送は、固体ばら積み貨物については国際海上固体ばら積み貨物規則(IMSBCコード:The International Maritime Solid Bulk Cargoes Code)、個品危険物(コンテナ)については国際海上危険物規程(IMDGコード)、液体ばら積み貨物については危険化学品のばら積運送のための船舶の構造および設備に関する国際規則(IBCコード)に詳細な要件が規定されており、IMOの貨物運送小委員会(CCC:Sub-Committee on Carriage of Cargoes and Containers)と汚染防止・対応小委員会(PPR:Sub-Committee on Pollution Prevention and Response)において、定期的な見直しが行われている。

1. IMDGコード(国際海上危険物規定)改正

同コードは、危険物運送の実態等に対応して2年毎に改正が行われており、第41回改正は、2024年6月1日に発効されるが、今般の改正と内容が一部重複する航空における危険物輸送に関する国際規則の改正が2023年1月1日に発効される為、輸送モード間で円滑な貨物の取次ぎを行うことができるように、IMDGコード(International Maritime Dangerous Goods Code)の第41回改正内容を2023年1月1日から取り入れることをIMOが推奨している為、国内法の改正が2023年1月1日から施行済。

第42回改正は、2023年9月に開催されたCCC9で審議され、概ね合意された。2024年5月に開催予定の第108回海上安全委員会(MSC(Maritime Safety Committee)108)にて採択される予定となっている。

2. IMSBCコード(国際海上固体ばら積み貨物規則)改正

IMSBCコードは、穀類を除く全ての固体ばら積み貨物を対象に、2011年1月1日に強制化された。荷送人は船長に対し貨物の詳細な情報を提出し、船長は、物質ごとに定められた要件に従って運送する義務を負う。貨物種別としては、3種類に分類される。

種別 A : 液状化のおそれのある物質 (例:ニッケル精鉱)

*) 運送中に液状化した場合の危険性が特に高い為、特段の措置を要求

種別 B : 科学的危険性を有する物質 (例:石炭)

種別 C : AまたはB以外の物質 (例:鉄鉱石)

同コードに掲載されたもの、及び、荷積み国主管庁の承認を受けたもののみが船舶にばら積みして輸送できることとなっている。

このことから、コード未採用の貨物の詳細要件については各国からIMO提案が提出され、CCCにおいて審議、MSCにおいて採択されている。

IMDGコードと同様、2年毎に改正が行われており、第7次改正による最新のコードが2025年

1月1日に発効することから、日本においてもIMSBCコードを担保する関係告示、通達等が改正され、同日施行が予定されている。

国土交通省には、前回と同じく、1年前倒しの早期運用に関する要望書を提出済みであり、2024年1月1日より、早期運用が施行となっている。

6・3・2 ISO/TC104(貨物コンテナ)に関する対応

1. ISO/TC104(貨物コンテナ)の概要

国際標準化機構(ISO)の中で104番目に設置された専門委員会(TC)であるTC104は19カ国の正式加盟国(Pメンバー:業務に積極的に参画し、規格投票に対する債務および可能な限り会議に参加するメンバー)および31カ国のオブザーバー加盟国(Oメンバー:オブザーバーとして業務に参画するメンバーであり、意見提出、会議出席の権利を有する)にて構成され、貨物コンテナ、特に海上コンテナに関する標準化について審議している。傘下に3つの小委員会(SC)および10のワーキンググループ(WG)が置かれている。

当協会は、日本工業標準調査会(JISC:Japanese Industrial Standards Committee)の承認の下、TC104の国内審議委員会「ISOコンテナ委員会」の事務局を務めている。

ISO/TC104“貨物コンテナ”	(ANSI(米国規格協会))
SC1“一般コンテナ”	(AFNOR(フランス規格協会))
WG1“一般貨物コンテナ”	(AFNOR)
WG2“取扱いおよび固縛”	(AFNOR)
SC2“特殊コンテナ”	(BSI(英国規格協会))
WG1“冷凍コンテナ”	(BSI)
WG4“タンクコンテナ”	(BSI)
WG7“ドライバルク貨物コンテナ”	(BSI)
SC4“識別および通信”	(AFNOR)
WG1“コード、識別および表示方法”	(AFNOR)
WG2“コンテナおよび付属品に関するAEI”	(AFNOR)
WG3“通信および用語”	(AFNOR)〈2024年2月廃止〉 →機能はWG1に移管
AHG1“TC104再活性化”	(ANSI)〈2022年新設〉
CAG“委員長諮問委員会”	(ANSI)
WG9“ISO830(用語)改訂”	(ANSI)〈2022年新設〉

()内は事務局

2. ISO/TC104の活動状況

ISO/TC104 年次総会は 2023 年度中は開催されていない。

傘下の SC、WG においては、SC1/WG2 が 12 月 15 日にオンライン会合を開催し、ISO1161 (すみ金具)に係る改定案などについて審議がなされた。また、SC2/WG7 は 12 月 17 日にオンライン会合を開催し、ISO1496-4(仕様および試験—ドライバルク用非加圧コンテナ)に関し、今後も更に修正の検討を継続することなどが決定された。

2023 年 4 月から 2024 年 3 月に以下 1 件の国際規格案(DIS)、1 件の改定案(Draft Amendment)を承認するなどの活動を実施した。

TC104 ISO/DIS830 (Ed3)	Vocabulary <承認>
SC1 ISO/DIS 1496-1:2013/DAm2 (Ed 6)	Series 1 freight containers — Specification and testing — Part 1:General cargo containers for general purposes — Amendment 2 <承認>
SC4 ISO/DTS7344	Short-range wireless sensor to device Communication <日本は棄権>